

BSR

4

2018
APRIL
VOL.588

BODY SHOP REPORT

For Body Repair Business
ボデーショップレポート

特集 鈹金技術者 座談会



鈹金塗装工場の未来経営
ボデーショップのための
先進技術の知識と整備

車種別構造研究 | レクサスLS/LSハイブリッド | マツダ・フレア

日光東照宮や鬼怒川温泉などで知られる、栃木県日光市にて事業を営む栃木菱和自動車販売（沼尾英昭社長）。アルミボデー専用ベイや可動式リフト付きの塗装ブースを導入するなど、近隣工場との差別化として設備投資を強化。その背景には、地域一番店を目指す同社の決意があった。

工場 ルポ

Shop Report

栃木菱和 自動車販売 (栃木県日光市)

■社長=沼尾英昭 ■所在地=栃木県日光市森友80-1 ■設立=1983年 ■指定整備工場認可=1983年 ■スタッフ数=9人 ■敷地面積=約2,400㎡(726坪) ■工場面積=約958㎡(290坪) ■ボデー修正装置=カロライナ、ブラックホーク×5 ■塗装ブース=AUSEN、ヘリオス ■塗料=オニキスHD

設備力と技術力を持って 小破から大破まで 全方位カバー

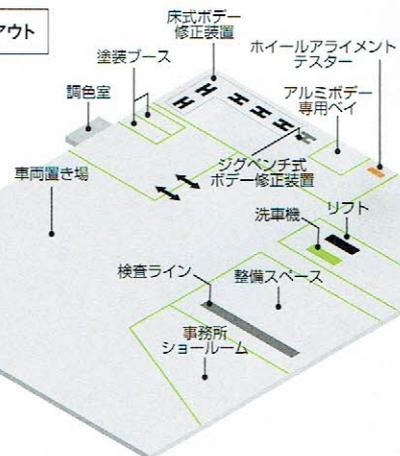
創業者は元・钣金技術者。その経験を買われてカーメーカー本社に勤務していたこともあってか、钣金塗装には並々ならぬ思いを持っていたと言う。整備工場としてスタートし、1989年に現在地へ移転。同時期に钣金塗装事業も開始した。

入庫の半数以上はDRPで、ディーラーや自動車用品店などからの下請けや直需も請け負う。現場は钣金3人、塗装3人、フロント1人の計7人で、月間平均60～70台を処理する。



設備と情報の増強で 車体修理の 最前線をひた走る

工場レイアウト



同社は各損害保険会社の指定工場になっていることもあり、小破から大破まであらゆる損傷に対応している。作業場にはベンチ式ボデー修正装置やホイールアライメントテスターといった設備を揃える。また、ロードサービスも提供しているため積載車を複数台用意している。さらに、2017年には钣金作業スペース内にアルミボデー専用ベイも設けた。「アルミ合金は高級車を中心に、ボンネットやバンパーなどに採用されている。近隣工場に先駆けていち早く用意し、入庫に備えたい」（福田順之部長）と、常に先を見据えて作業環境を整えている。

3年前にはアジャスターなどの損保

関係者を対象とした工場見学会を開催し、自社の設備や技術力をアピールする機会を設けた。「この2～3年は下請けの処理台数が増えている」（沼尾社長）ことから、同社の存在は元請けにとって拠り所となっているようだ。



沼尾英昭社長（左から3人目）、福田順之部長（同4人目）とスタッフ



钣金作業スペースにアルミボデー専用ペイを配する



塗装ブース2基のうち左側は可動式リフト付き

少数精鋭を維持するため 省力化につながる設備や 製品をフル活用

環境への配慮という観点から、2年前には上塗り塗料の100%水性化を達成。導入時には水性塗料に適したコンプレッサーに入れ替えるなど、作業環境を整えることで効率化と品質の維持を図った。その後は福田部長の指示の下、処理台数を維持し続けている。

経験の浅いスタッフの指導に当たる傍ら自身も作業をこなしており、塗り肌に関しては「メタリックカラーの塗装はメタルの並びを整えるのが難しいので、1回目の吹き付けでは色味の調整だけに集中し、2回目以降で整えていく」などのこだわりも見せる。

作業中は本格塗装ブースを2基稼働させて作業効率を高めている。そのうち1基は可動式リフトを備えており、ハイルーフ車のルーフを作業する際には非常に役立つ。

また、小傷の修復には紫外線硬化型のプラサフを活用し、作業時間の短縮を図っている。こうして作業を省力化をすることで、少人数でも処理台数を維持できる体制を構築している。

トータルカーサーサポートの 体現で地域のトップランナー を目指す

同社が位置する日光市周辺は交通至便とは言えず、車が生活必需品となっ

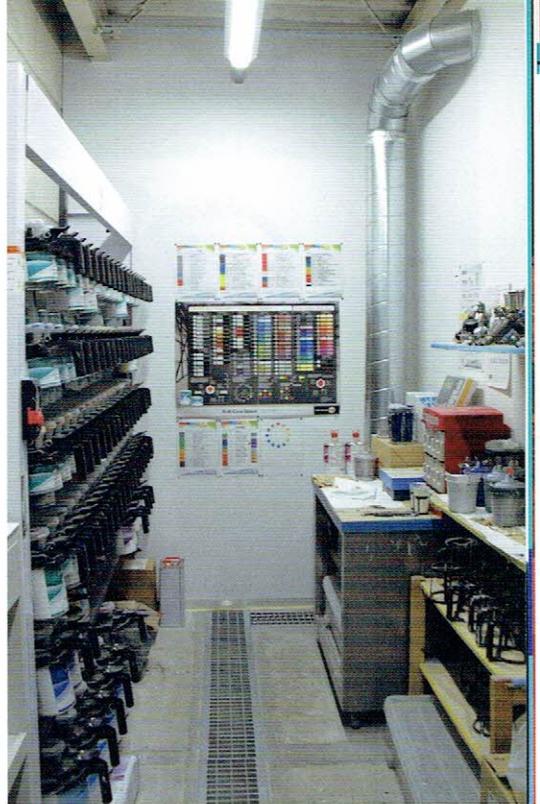
ている。事故発生件数は減少しているものの、発生時には代替えよりも修理を選択するカーオーナーが多い。しかし「修理金額や修理後の状態によって、買い替えたほうが良いケースもある」（沼尾社長）ため、同社では車販にも注力している。近年は特に中古車の販売が好調だ。

仕入れは顧客からの買い取りやオークションでの買い付けが中心。リピーターが多く、県外にも顧客を持つ。「車販を通じて車検や整備といったアフターサービスにもつなげる。保険にも加入してもらえば、钣金塗装の需要も見込める」と、車販をフックにしたトータルカーサポートを体現している。今後はWebサイトによる集客をさらに強化する方針で、全国を対象に車両を販売していきたいと考えている。

また、同社は業界団体であるBSサミットに加盟しており、他社との交流や情報交換にも積極的だ。「カラーリヤー塗装の外注作業や技術指導を依頼されることもある」など、他社からも技術力や情報力を評価されている。

現在は第三者機関・テュフラインランドジャパンが認定する「BSサミット エクセレント工場」の認定取得に向けて準備を進めている。設備力と情報力によって自社の修理品質をさらに高め、近隣ボデーショップのトップランナーとしての体制を構築していく。

(西片 美樹)



調色室



阿久津 真理氏

未知なる仕事に挑む ペインター その素顔は働く4児の母

入社3年目、未経験で業界に飛び込んだ阿久津氏は、塗装業務を担当している。「事務員として入社するはずだったが、前・会長に見込まれて現場に配属された」。最初は新品パネルの足付けから始めたが「戸惑いも多く、仕事運びを失敗したと思うこともあった」。その後研鑽を重ねるうちに作業全体を理解し、次の工程のことを考えて作業を進められるようになった。

プライベートでは4人の子を持つ母。仕事と育児の両立について尋ねると「定時よりも1時間早上がりさせてもらっている。職場の理解さえ得られれば、女性が働けない職種ではない」と強調する。「ゼロからスタートし、ひと通りの作業を任せてもらえることに感謝している。練習を積み、新車同様の仕上がりに近づけられるよう努力したい」と語る瞳の奥には、並々ならぬ熱意が満ちていた。